

第5学年音楽科学習指導案

平成〇年〇月〇日
 〇年〇組児童数〇名
 指導者 〇〇〇〇〇

1. 単元名 「リズムアンサンブルをつくろう」

2. 元の目標

○楽器の音色や音が重なる響き、音楽の仕組みを生かして、音楽を作ったり演奏したりする。

3. 単元の評価規準

音楽科の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
楽器の音が組み合わさる響きに興味・関心をもち、反復・問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして音楽をつくる活動に主体的に取り組もうとしている。	楽器の音色を聴きとり、その組み合わせによる響きを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かし、どのようなリズムアンサンブルにしたらいいかについて見通しをもっている。	楽器の音色やリズムを組み合わせ、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして、リズムアンサンブルをつくっている。	

プログラミング学習の評価規準

論理思考力	プログラミングの技能
全体をイメージし、反復や変化の構成を考える。	リズム・楽器・速度の入力。重なるリズムの音を多くしたり、少なくしたりする入力。

4. 単元観（プログラミング学習との関連）

反復や変化のある音の重なり方をプログラミングすることによって、聴いて仕上がりを確認することができ、何度も確かめながら工夫することができる。

5. 児童の実態

音楽の表現の活動では、歌唱やリコーダーなど旋律楽器に取り組むことが多いが、全員が打楽器を演奏する機会は高学年ではあまりない。つくる活動では、日本の音楽の単元で、音さがしや短いふしづくりを行ったが、曲の構成を考えてつくる活動は経験がない。本単元で、リズムを合わせる楽しさやプログラミングを通して、曲のしくみに気づき、音楽が構成的に作られているのに気づかせたい。

ラズベリーパイは4年生から使用して学習している。起動や簡単な操作はほとんどの児童ができる。1学期は、市民科で、「協力してプログラミングしよう」という単元で校内研究授業を行った。飛行機を飛ばすプログラムをグループで考え、試行錯誤し、スクラッチ上で表現した。

6. 研究主題に迫るための具体的な手立て

(1) 論理的思考力の育成

即興的な音楽づくりでなく、音楽の仕組みを理解し、リズムの反復や重なり、変化の組み合わせを考え、構造的に音楽全体をとらえながら音楽を聴いたり、音楽づくりをしたりすることで、論理的な思考が育つと考えた。

(2) 文化的創造力の育成

多様な音楽を知ったり、音楽を作り出す活動したりすることによって、より音楽の面白さを体験できると考えた。自ら音楽をつくる経験を重ねることによって、作り出すことへの意欲が育てられると考えた。

(3) コミュニケーション力の育成

お互いの表現を認め合ったり、意見を言ったりなど、音を通してコミュニケーションをして音楽づくりを行う。他のグループの仕組みにも気づき、意見交換をして、音楽や意見を通しての交流を楽しむ。グループのまとめていく活動を通し自分の考えをもち、伝えることの大事さを感じることで、コミュニケーション能力の育成につながると考えた。

(4) 表現力の育成

認め合って表現できる経験を重ねることで、一人一人が自信をもち、自分らしい表現ができるようになると考えた。また、音楽の仕組みを理解することによって、自分で工夫して作る楽しさを知り、よりよい表現のために、進んで表現を工夫しようとする児童が育つと考えた。

7. 学習指導計画（4時間扱い）

次	時数	学習内容	指導上の留意点	☆支援◇評価【評価方法】
1	1	○いろいろな2小節のリズムを、即興的につなげたり、重ねたりする。 ○考えたリズムに合う楽器の音色や組み	・息を合わせ、拍の流れにのってリズムを演奏させる。 ・他のリズムと重なり響きに違いに気づかせる。	☆拍にのってリズムを演奏できるようにする。 ◇音の組み合わせる響きに興味・関心を持って主体的に取り組もうとしている。【観察】

		合わせを考える。		
2 3		○音楽のしくみ（反復・問いと答え・変化・音楽の縦と横の関係）について知り、リズムアンサンブルを作る見通しをもつ。 ○音の重なりや響きを試しながら、スクラッチでリズムアンサンブルをつくる。	・どのように表現した いか見通しをもつよ うに促す。 ・入力した音楽の全体 を聴き、確かめなが ら作らせる。 ・強弱や速度なども工 夫してよいことを伝 える。	☆ワークシートを用意し 自分の意見をもって話し 合いに参加できるように する ◇組み合わせによる響き を感じ取りながら、ど のようなリズムアンサン ブルにしたらいかに ついて、見通しをも っている。 【ワークシート・プロ グラム】
4. 本時		○終わりを工夫し、 自分たちの作品をま とめる。 ○自分たちの作った リズムアンサンブル の構成をスクラッチ で紹介する。 ○作ったリズムアン サンブルの発表会を する。	・音楽のまとまりを考 えて仕上げるよう にさせる。 ・音楽の構成の仕方 に気づいて、友だち の演奏を聴くよう に助言する。	☆スクラッチの記録を確 認しながら、まとまり を感じて演奏するよ うにする。 ◇音楽のまとまりに気づ いて、他のグループの 演奏を聴いたり、自 分のグループのリ ズムアンサンブルを 作ったり演奏したり している。【発表・ワ ークシート】

8. 本時の学習（4 / 4時間）

(1) ねらい

- 音の重なりや響き感じ、音楽の仕組みを使ってリズムアンサンブルを作る。
- お互いに聴き合い、気づいたことを発表し合う。

(2) 展開

	主な学習活動	指導上の留意点	☆支援◇評価【評価方法】
--	--------	---------	--------------

導入	1. リズムリレーをする。	・ 4拍子の拍を意識させる。	☆メトロノームや手拍子を使って、拍を意識できるようにする。 ☆リズムの特徴を生かして演奏する
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> グループのリズムアンサンブルを発表しよう </div>		
まとめ	5. 振り返りをする (ワークシート)		◇音楽の仕組みに気づいて、他のグループの演奏を聴くことができる。 【ワークシート、発表】
	2. スクラッチで作った自分たちの作品を確認する。 3. 終わり方を工夫し、作品を仕上げる。 4. 自分たちのリズムアンサンブルを発表したり、友だちのグループの演奏を聴いたりする。	・スクラッチでの作品を紹介させる。 ・強弱や速度を決めて演奏するように伝える。 ・それぞれよさの違いに気づかせる。どんな仕組みを使っているかに注目させる。	☆スクラッチで作った記録を思い出しながら、演奏させる。 ☆グループの演奏の工夫ができるように声を掛けさせる。 ◇音楽の仕組みを生かして、リズムアンサンブルを作ったり、演奏したりしている。 【ワークシート、発表】